

第2回東戸塚小学校過大規模校対策検討部会 会議録

日 時	令和5年8月17日(木) 18時00分～20時00分
開 催 場 所	東戸塚小学校
出 席 者 (14名)	川畑部会長、中山副部会長、坂間委員、山本委員、青山委員、加藤委員、保科委員、森田委員、小野委員、岡部委員、植野委員、山手委員、小佐野委員、岩田委員
欠 席 者 (1名)	高杉委員
事 務 局	教育委員会事務局学校計画課 大塚担当課長、杉谷担当係長、福田、井川、水口
関 係 課	教育委員会事務局教育施設課 赤羽担当課長、田島計画推進係長、永山整備係長 教育委員会事務局南部学校教育事務所指導主事室 中里見指導主事 戸塚区市政推進課 雨堤課長、織地まちづくり調整担当係長 戸塚区こども家庭支援課 清家担当係長
開 催 形 態	公開(傍聴者4人)
議 事	1 東戸塚小学校の過大規模校対策の検討について
決 定 事 項	1 東戸塚小学校の通学区域については、特別調整通学区域の設定等による変更は行わないことを、検討部会の意見とすることとしました。 2 東戸塚小学校の過大規模校対策については、意見交換で分校設置案がよいという意見が多く出ていることを踏まえ、各所属団体の意見を改めて伺い、第3回検討部会で、過大規模校対策の方向性について引き続き検討することになりました。
議 事	1 東戸塚小学校の過大規模校対策の検討について (部会長) 始めに通学区域の調整案について議論をしていきたいと思います。まず、委員全員から御意見をいただき、その後、議論をしていきたいと思います。 (委員) 私の所属している自治会では、児童数は少ないですが、東戸塚小学校に入学予定のお子さんはいます。隣接する地域にも、これから入学予定のお子さんがいます。今の東戸塚小学校の居心地がいいので、なるべくそのままにしてほしいというのが願いです。ただ、児童数が増えて過大規模校になるということはデータ上では明らかです。そのことを検討するための検討部会だと思いますが、前回は子どもの数をどうしていくかということが議論の中心だったと思います。しかし、マンションや事務所などとは異なり、児童数に対応できるキャパシティがあればいいという議論は教育施設の場合にはそぐわないと感じており、違和感がありました。東戸塚小学校学校運営協議会にも携わっていきまして、授業の様子や、先生の仕事の様子を年に数回見えています。先生方は一生懸命に取り組まれており、質問に寄せられたとおり、この学校に入りたいという希望を聞く機会が多いです。先生方のマンパワーで維持していただいておりますが、それも限界にきていると思います。教育施設は枠だけではなく、どう子どもたちを育てるかという環境づくりの視点をもってほしいです。例えば、ICTを活用することや障害のある子どもたちや外国籍の子どもたちと一緒に教育をできるようにすること、SDGsのポリシーを持つことなど、22世紀までうらやまれるような施設をつくるチャンスだと思います。教室数を増やすだけでなく、卒業する子どもたちを

次の50年、100年を担う人材として育てるモデル校につくり替えるチャンスだと思います。自治会の中でも子どもの視点を持って検討してほしいという要望が出ました。学校現場では子ども一人に先生一人が付かなければいけない状況もあります。個別支援学級の将来の児童数は予想がつかないのですが、市の統計では、ここ10年で一般学級の学級数は200学級くらい減っていますが、個別支援学級は600学級増えており、今の個別支援学級の学級数より減るということは考えられません。そういう意味でも、インクルーシブな学校づくりをするポリシーは不可欠ですし、それを施設の面からも考えて新しい学校をつくるという視点が欲しいです。

(委員)

私どもの自治会は場所的に東戸塚小学校の方が近いので、自治会や子ども会組織のメンバーと懇談をして、情報提供して、御意見を伺っていますが、倉田小学校に通うのはどうかと聞くとあまり賛意は得られません。1年生が歩いていくのは厳しいと思います。どちらか選べるという考え方であれば、恐らく倉田小学校には行かないと思いますよ、という御意見はいただいています。私の考え方としては、となり近所で通学する学校が異なるのは違和感がありますが、家庭の事情もあると思いますし、今後の議論の中で大規模校になって先生の目が届かないような学校になるのであれば、規模の小さい学校を選ぶ人もいると思いますので、選ぶという方式については、私どもは良しとしています。

(委員)

私の所属している町内会としても二人がおっしゃった内容と同じです。東戸塚小学校は最も多い時で1,900人程度いました。いろいろな手段を使って、課題を解決しながら、東戸塚小学校という環境をつくり上げてきました。環境を変えてはいけないというのが基本にある中で、分校というのはどうなのかとずっと考えていました。市場小学校の事例が出ていましたが、市場小学校と東戸塚小学校はグラウンドの広さが異なります。東戸塚小学校は同一敷地内に分校を併設できるという話をするとき、新しい分校併設案でいけたらいいという意見が出てきています。現在、東戸塚小学校に通われている児童の保護者からは、お子さんが既に入学してしまっているため、建替えに直接影響する世代としての意見がもらえません。今の環境を残すためにはどうしたらいいかと思っていますが、同一敷地内での分校併設が一番いい案だろうと思います。先生の数も増やせて、子ども一人当たりのお金が潤沢に割り当てられるのが一番よいと思います。文部科学省のルールなので当てはめようとすると難しい面もあるかもしれませんが、整合性を取りながらやっていくのがベストなのだろうと考えています。

(委員)

資料4の意見内容を見て、保護者として切羽詰まっているように見受けられました。町内会で若い子ども連れの御夫婦から挨拶された際に、他の小学校にも行って見ましたが、やはり東戸塚小学校の環境がいいので、こちらに引っ越してきましたとおっしゃっていました。資料4の御質問を寄せられた方もそうですが、他の小学校が悪いということではなく、通学区域のことや子どものことを真剣に考えると、親としてベストなところに入れたいというのが本音だと思います。教育委員会の方も、通

学区調整の検討を行うのであれば、分かりやすくスピード感をもってやっていただきたいです。

(委員)

まだ正直に言って水面下にいるような状態と思っています。今の段階では、まだ雲をつかむような意見で、教育委員会が取り入れていくのが難しいのではないかと思います。教育委員会は決まった予算と方向性を見出していると思いますので、しっかりそこをふまえて、同じ方向を向ける状態に持っていかなければ、いい結果、いい仕事ができないのではないかな、と今の段階ではと思っています。

(委員)

役員会で報告をしましたが、これから入学予定のお子さんがある方からは、不安なので早く決めてほしいとの御意見をいただきました。やはりスピード感をもって進めていかないと不安が出てきてしまいます。資料4の意見は、切実に考えていらっしゃると思っています。児童数が増えていくのは仕方がないので、そういった中でいかに緩和ができるのかと考えていますが、通学区域変更については厳しいと感じています。特別調整通学区域を設定すれば、選択肢が増えていいのではないかといい御意見もいただいています。私自身も特別調整通学区域の設定が、ベストとは言えませんが、よいのではないかとと思っています。

(委員)

私たちのマンションにも、若いファミリーがたくさんいまして、個別に話を聞いたりしています。こういった話が出てきて、幼稚園のお子さんを持つ保護者は不安に思っています。東戸塚小学校の教育環境の質はとても高いですが、大規模校になるとその質が下がったりしないか心配しています。私も子どもが東戸塚小学校でお世話になっていましたが、授業も先生が前向きで工夫されているし、運動会もうまく回していました。ぜひ質の高い教育をキープして対策していただきたいです。

(委員)

皆さんと同じですが、これまでずっと住んできて、過去も含めて地域の仲間だった方が通学区域の変更により分かれてしまうということは考えられません。特別調整通学区域を設定して距離が近い方がよいという御家庭の場合には倉田小学校に行くという程度の調整が限度ではないでしょうか。

(委員)

皆さんの御意見と概ね同じですが、もし自分が上倉田町にいて、下の子どもは違う通学区域ですと言われたら嫌です。なぜ東戸塚小学校を選びたいか、という同世代の保護者の意向としては、共働き世帯が多く、戸塚駅を利用して、学童も学校も一連の流れで、短時間で終わられるので、東戸塚小学校の通学を望まれるのだと思います。前の委員も仰っていましたが、特別調整通学区域はどうしても倉田小学校に行きたい方がいたら選べるようにするのはいいと思います。児童数が増えすぎてしまうことで学級崩壊につながるような、教育の質が下がるようなことがあるのであれば、建替え案の中で、人員も増やせるような案を選択していくのが有力ですし、同時に解決でき

るのではないのでしょうか。人が増える選択肢として、今だと分校案を前提に考えるのが妥当であり、分けて考えるものではないと思います。

(委員)

通学区域については、特別調整通学区域がいいかなと思っています。なぜ上倉田町だけ、ということもありますし、兄弟がいる中で下の子だけが倉田小学校になるのはかわいそうです。人数の問題もありますが、通学区域の話だけすると、特別調整通学区域の設定が一番よいと思います。

(委員)

本校の過大規模校対策の検討について、本当にありがとうございます。

通学区域変更はなかなか難しいと考えています。特別調整通学区域についても、検討部会ニュース第1号のP3～4では、仮に50%が倉田小学校を選んでも、令和7年度の学級数が1学級しか減りません。令和10年度でも4学級しか変わらないというところを考えると、労が多くて効が少ないと感じています。今の東戸塚小学校の通学区域を維持したいです。

(委員)

足に障害があるお子さんが中学校の通学環境を考えて小学校1年生の時に越されてきたのですが、通いたかった中学校が統合でなくなってしまったことがありました。離れた地域の中学校に通うことになったため、3年間、保護者が車で送り迎えをしたと聞きました。

また、ある小学校では30軒くらいの町内会だけ別の中学校に通う通学区域になっているところがあり、みんなと同じ中学校に通わせてくださいと泣きながら話されることが度々ありました。後に、この地域に特別調整通学区域が設定され、希望する学校に行けるようになりました。笑顔で入学できる学校にした方がいいので、特別調整通学区域が設定されてよかったと思います。

今の状況を見ると、特別調整通学区域を設定してあげた方がよいのではないのでしょうか。

(委員)

私の子どもはちょうど入学の時に中学校が統合したため、少し距離が離れた中学校に通うことになりました。統合がなければ歩いて3分でしたが、統合した中学校は20分くらいかかります。過保護かもしれませんが、交通量の多い道路もあり、環境が変わると保護者にとってもストレスになります。前回も話しましたが、特別調整通学区域を設定したところで、東戸塚小学校に通いたい児童、保護者が多いはず。東戸塚小学校は、交通の便もいいし、児童を預けられるところもあります。色々な小学校の良さはありますが、今まで通っていた地域から通学区域を変えることはハードルが高く、メリットがほとんどないと断言します。人数的にも特別調整通学区域の子どもたちは、ほとんど東戸塚小学校に来ると思われます。そうしたことを考えると、通学区域を変える必要はないのではないかとというのが基本的な考えです。それよりは、東戸塚小学校に通いたいという児童、保護者、地域の要望が強いということであれば、その意見を最大限叶えられるような施設をつくっていく必要があると思いま

す。数合わせで通学区域変更したり、学校を二つに分けたりということではなく、子どもたちがどうやったら過ごしやすく、保護者がどうやったら安心できるのか、そういったことを最優先に考えていくべきではないでしょうか。検討部会ニュース第1号の表6を見ると分離新設案はメリットが多く、単独整備案や分校設置案は比較的、デメリットが多いように見えますが、学校と地域と教育委員会で考えれば、ハードルは下げられると思います。まず考えるべきは、子どもたちがどうすれば過ごしやすいかです。同じ敷地に違う学校が2つできたら、子どもたちや先生方はどう考えるでしょうか。

(部会長)

今、皆さんの色々な御意見を伺い、通学区域は変更しない方がいいという意見、特別調整通学区域ならあってもいいという意見の2つが出てきたかと思いますが、今の校長先生方の話を聞くと、特別調整通学区域も含めて通学区域の変更はしない方がいいとも思えてきますが、皆さんはいかがでしょうか？

<拍手>

(部会長)

そういう方向で進めたいと思いますが、いかがでしょうか？

<賛同>

(部会長)

それでは、通学区域の調整は行わないという方向性としてしたいと思います。

続いて、過大規模校対策の方向性について議論していきたいと思います。過大規模校対策の方向性をどう持っていったらいいか、いかがですか。

(委員)

私も東戸塚小学校の卒業生ですが、皆さんもこういう状況に初めて直面していることと思います。この機会に未来に残すいい学校にしていく、そのためには教育現場の先生方、ましてや校長先生がいかにいい学校づくりをしていくのか、それがまず一番の意見だと思っています。私たちの意見はどうしても外部からになってしまうので、本質が一番見えているのは学校長、先生方かなと思っています。先生方がこういう学校づくりをしたいという意思があれば、その先生の意見に寄り添っていききたいと思います。

(委員)

過大規模校対策については、単独整備案で進めてほしいと思っています。物理的にも同じ場所であることを考えると、単独整備案がベストだと思います。先生の現場での意見も聞き、マンパワーでいろいろ努力されていますが、これ以上児童数が増えた場合の対応が難しいという意見もありました。教職員の配置も原則と言っていたので、副校長の2名体制も特例として検討していただければと思います。新しい未来の学校づくりになりますので、何度も言いますがスピード感をもってやってほしいです。

(部会長)

ぜひ方向性をにらみながら議論をしてほしいと思います。方向性として3案が示されているので、この点についても御意見いただければと思います。

(委員)

3択ですよ。どの案にしても、用途地域として20mの建物が建てられることを踏まえて、もっと高さを活かしていったらどうかと思います。校舎の規模によって条件が変わってくるのではと思います。校舎の高さは通常は2～3階だと思いますが、防災、防犯などを考え、5階建てくらいの建物を1つつくれば、校舎を分けなくてもいいのではないのでしょうか。教育委員会として、校舎の大きさに関しては、どのように考えていますか。何階建ての校舎にしていくのでしょうか。

(事務局)

方向性として3案を示していますが、案により様々なパターンが考えられます。小学校は低層の建物をつくることが多く、前回もバリアフリーという言葉が出ました。地域防災拠点として利用する際、高さがある場合に様々な弊害が起こってくることも考えられます。そうしたことも含めて、皆さんに御議論いただいた上で、高層化を図って集約するという可能性はゼロではないかと思います。

(委員)

前回も話があったとおり、川の氾濫の危険性もあり、1階は被害が出る可能性があります。教室は、大体1教室50～70㎡で高さが2.4m程度だと思いますが、普通の校舎であれば、校舎を高層にしていけば何棟も整備しなくても、1棟で入りきるのではないのでしょうか。そういう部分を議論していただきたいなと思っています。

(部会長)

どのような校舎にするかは今後の議論になると思いますが、過大規模校対策の案によって変わってくると思いますので、気になる点があれば、この検討部会の中でも確認していきたいと思っています。

(委員)

分校設置案は人員配置が潤沢であるという印象です。人員配置は、建物に付随するものだと思います。理想的には単独整備案で、分校設置案並みの人員を付けてもらうのが一番いいかなと思っていますが、それはこちらが勝手に考えていることです。どうすればそれが実現できるのかと考えると、単独整備案と分校設置案のいいところを取りながら着地できるとよいかと思っています。建物は立派でも、先生が多いとマネジメントも難しいと思いますし、一步間違えるとコントロールできなくなるので、子どもファーストを実現するために、先生方が思う存分、児童と向き合える環境をつくることも大事だと思います。単独整備案で教職員の配置のところが、分離新設案のような形になればよいと考えています。

(委員)

先ほどの意見と同じです。単独整備案と分校設置案で、市から学校に割り当てられ

る予算が違うのではないかと思います。分校設置案だと副校長が2人になります。例えば、毎月の学校だよりを1,500枚以上用意して配布したり、ミスがあった際に配りなおす業務を考えたとした場合、副校長1人と2人ではだいぶ労力が異なります。資料6の敷地内に分校を設置するパターンは前例がないと思われます。制度上は分校でも、実質は1つの学校に近い形で運営でき、1.5倍とか2倍の予算が割り当てられるのであれば、そうした形がベストだと思います。

(委員)

私たちの自治会では、分校設置案か単独整備案かのどちらかだろうという意見です。分校について、例えば、東戸塚小学校〇〇校舎という言い方をすることはできないのでしょうか。単独整備案の方針だと体育館や音楽室、図工室等を1つずつしかつくれないのではないかと心配しています。そうすると児童数的に足りなくなってしまうのではないのでしょうか。分校を設置するとしたら、教員が違う校舎に教えに行ったり、児童が違う校舎を使ったりできるのでしょうか。皆さんからもあったように、教職員の人数は分校にした方が充実するはずだと聞いています。予算についても、分校の方が充実するはずで。例えば、職員室について、44学級まで増えたらその分だけ大きい職員室になると思われませんが、そのような職員室はありえるのでしょうか。施設整備についても、分校の方が充実するのではないのでしょうか。給食調理室も2か所にした方が安全につくれるのではないのでしょうか。経験則ですが、大部分は分校設置案の方が、有利に事が進むのではと思っています。国から予算をもらわないといけなくて、国が定める一定のルールの下で進めていかなければなりません、そのルールも現状は厳密に定められてはいないのではないかと考えています。先ほど他の委員が述べられたように、大きく素晴らしい建物ができるに越したことはないですが、検討部会で決めたとして、市がそれを担保してくれるものではないでしょう。現行制度の中で、少しでも校舎が充実し運営しやすいような配置にして、教員の人数と予算がしっかり確保されることを選択すべきだと考えます。保護者に話を聞いたところ、きれいな校舎でいろいろな教室が使えて、たくさん先生がいて、目を配っていただいて、そういう小学校がいいと思っていると伺いました。名前とか分校とかは二の次でかまわないのではないのでしょうか。横浜市で一番児童が多い学校に魅力を感じないと思います。さらに言うと、歴史とか伝統を重んじ過ぎるのではなく、今後の子どもたちに何を提供することがいいのかを一番に考えた方がいいと思います。児童数を考えると、全校集会で一か所に集まって、校長先生がお話しされることは想像できるでしょうか。学年やクラスを分けないといけない行事も出てくると思います。例えば、今回、同一敷地内に分校をつくったとしても、同じ校門から1～6年生まで登下校することができ、運動会は一緒に開催することのできるのであれば、単独整備案にこだわる必要はないと思います。ぜひ情報を提供していただいて、メリット・デメリットをこの場で共有し、将来こうなる恐れもあるとか、こうした違いが想定されるとか、微妙な部分も踏み込んでいただいて説明をいただけると助かります。

(部会長)

より良い学校をつくっていくために、バイアスをかけないで議論していただきたいと思います。一旦議論を中断し、分校について、事務局から説明していただきたいと思います。

(事務局)

資料6を説明する前に、御発言にあった質問にお答えします。

〇〇分校という名前は、例えば〇〇校舎ではだめなのかという質問について、分校を設置する場合は、〇〇分校という名称を条例で定める必要があります。単独整備案だと体育館などが1つしかつけれないのではないかと、特別教室が足りないのではないかと、という御質問については、体育館やプールについては児童数に合わせて大きめにつくることを検討します。音楽室や理科室については、一定の学級数以上では単独整備案であっても第二教室をつくることになっています。学校予算の配分については、難しい話になりますが、学校の配当予算は学校割でついている予算と学級数でついている予算があります。分校は1校カウントになり、学校割では2校分配付される計算になるため、同じ学級数でも多く配付されます。職員室の質問については、単独整備の場合でも教員数に見合った職員室を整備します。分校を設置した場合の教員の配置数は単独整備の場合よりも充実するのではという質問については、教育委員会としても同様の見込みを持っています。用務員や学校事務については、どういう学校になるかにもよりますが、学校事務は分校の場合でもそれほど増えない見込みです。用務員は学校の敷地の広さと学級数で配置を決めています、学校の敷地が広がるわけではありません。分校となった場合は、実態も踏まえて検討する余地はあると考えています。

(資料6について説明)

(部会長)

分校の考え方について、最初に教育委員会から話を聞いたときは資料6の右側の図のような考え方だったように思います。同じ敷地内で整備してもらえるところまで検討していただいたということを理解していただければと思います。

(委員)

施設の整備を充実させることや予算、先生の配置等を踏まえ、分校設置案が一番いいと思います。分校とはいえ児童同士の交流は可能ですよね。学校だよりはこういう場合どうなるのでしょうか。学校としての一体感はあるのでしょうか。行事を一緒にできるのかなど、一体感が持てるような関係になるならいいと思います。

(委員)

分校設置案がいいと思います。ハード面とソフト面の話がありますが、大きくて広い豪華な校舎は子どもにとっていい環境になると思いますが、ソフト面の予算、教員の数などの課題を解決していくためには分校にしないといけないと思います。ある種の妥協点を探すという意味でおすすめしたいです。1点だけ懸念しているのが、分校を設置し、1つの学校として運営していたとしても、例えば、異動によって校長先生が変わったときに、校長先生の考え次第でやはり分離新設とするようなことが起きないかということです。

(委員)

重要視したいのは教職員の配置数ですので、分校設置案なのかなと思っています。

理想は単独整備案ですが、妥協案として考えています。分校設置案にしたときに、申請、手続き、承認にどれくらいかかるのでしょうか。児童数・学級数の増加に間に合うのでしょうか。

(事務局)

分校を設置すると決めたら、事務手続き上は、市から県に届出を出すことと、条例改正の二つが大きな手続きになりますが、何年もかけて行うことではないと考えています。

(事務局)

これまでに出了分校についての御質問に対して回答しますが、学校だよりを校長名で出すとなると、校長は一人ですので、本校も分校もなく同一で構わないと思います。分校の児童だけを対象にするお知らせなどがあれば、それは分校だけで出せばいいですし、全体で出さないといけないということであれば、それは校長が両校を対象にする必要があるかと思ひます。校長が1名ですので、臨機応変に対応いただくことになると思ひます。

(委員)

今回、検討部会を開催するにあたり、分校設置案の説明をしてほしいと言ひました。子どもたちの幸せを考えるとお金が大事になります。建物が立派でも予算がつかないと全然動けないことになってしまひます。ハード面で問題になるのはプールでしょうか。予算をつけるとしても分校なら多く割り当てられるし、教員も増えると思われまひす。子どもたちにとってどちらがいいか考えると、分けられては困るというのは分かひりますが、分校設置案で進めて議論していく方がよいと思ひます。

(委員)

小学校の先生の数が少なく、授業が始まると職員室に誰もいない状態になっていまひす。少しでも子どもたちの環境を良くするためには、教職員の人数が必要なので分校案がいいのかなと思ひます。分校名は書類上の問題と捉えていいのでしょうか。児童や先生の間では通称名を使用してもいいものなのでしょうか。本校・分校とすると、本校に行きたい児童が多くなるのではないのでしょうか。市場小学校・けやき分校では、5・6年を分校にし、混乱をなくしているとのことですが、最初から同じ敷地内にあり、学年で分けるということであれば混乱はありませんし、分校を愛称で呼ぶようにすれば、子どもたちもそんなに違和感はないのかなと思ひます。

(委員)

市場小学校とけやき分校は歩けない距離でありませんが、距離が少し離れていまひす。1～4年生と5・6年生というように学年で分けていまひますが、1～6年生までいてこそ小学校だと思ひます。高学年が低学年の面倒を見ることで成長する面がありますが、5・6年生しかいないとそういった面が弱くなる傾向が見られるとのことですが、先ほど示していただいたように、東戸塚小学校の場合においては、そこはクリアできると思ひて話を聞いていまひました。学校運営ではまずは安心安全が一番です。校長はそこに一番気を使ひますし、軸にして考えていまひます。学校では子どもたちに輝いてほし

と思っています。子どもたちを輝かせることができるのは先生であり、いろんな角度から光を当ててあげる必要があります。その先生たちを輝かせられるのは校長や副校長だと思います。分校設置案に賛成ですが、校長1名体制だと大変だと思います。私も転勤で前任校より教職員が20名ほど増えただけでも運営に苦勞しています。いろいろな考え方の先生がいらっしゃるため、それぞれの良さを引き出しながら校長は運営しています。分校を設置する案がいいと思いますが、校長や副校長の体制は配慮が必要かなと思います。

(部会長)

ありがとうございます。委員は恐らくスパン・オブ・コントロールのお話をされたと思います。千人規模の児童がいる学校において、1校に対して校長1名というのは非常に少ないとは思っています。

(委員)

皆さん、貴重な御意見ありがとうございます。私の考えとしては、この機会に子どもたちや教職員にも「どんな学校がいいの」と聞きながら、素晴らしい学校をつくりたいと思っています。学校施設、教職員、学校運営費が充実して初めて理想の学校になると考えています。特別支援、国際理解、SDGs、情報教育、ICTなども考慮して、理想の教育施設をつくりたいという希望があります。東戸塚小学校は設立から70年を超えているところですが、100周年、150周年に向けて、夢の学校であってほしいと考えています。

先ほどお話いただいたように、学校の予算については、前任校の3倍の子どもがいても、予算は3倍ではありません。先ほどの学校割と学級割という考え方がありますが、事務の方もお金がないと苦慮しており、予算の話は大切だと考えています。

また、1つの学校として全校児童全員が入る体育館を整備してほしいという希望があります。大規模な体育館を整備し、パーテーション等で分けて、それを外せば2つのクラスの活動を合同で行えるというような工夫をしてほしいです。さらに、職員室も1つにしてほしいです。それが難しいのであれば、校舎の真ん中の部分に職員室を設けていただいて、第一職員室、第二職員室という形で整備する工夫をしていただきたいです。分校であっても、1つの学校としての部分も大切にしたい運営をするため、工夫をしていきたいと考えています。

(部会長)

ハード面とソフト面を両立させていく必要がありますが、ハード面もしっかり考えていただきたいです。なぜかという時間がないためです。何よりも校舎を整備しなければなりません。過大規模校対策の方策について、検討部会としての意見をまとめ、検討部会を閉会した後、次のステップでどういった校舎の形態にするのかを決めなくてはならないと思います。そのためにも、まずは過大規模校対策の3案のどれかを選んでいく必要があるかと考えています。

これまでの皆さんの話を聞いての質問や追加でお話しされたいことがありましたらお願いします。

(委員)

先ほど、校舎の整備の話をしました。校舎の整備プランは何通りか出しているのでしょうか。あくまで、こちらの意見や要望をお伝えしてから設計されるのでしょうか。資料6はあくまでも大まかな図だと思いますが、これだとグラウンドがどいう位置になるのかもわかりません。

(部会長)

基本的にはまず、3つの案のうち、どの方向性にするのかを決めてから、それによって単独整備案であれば校舎が1つになり、分校設置案、分離新設案であれば校舎が2つになるイメージだと考えています。まずは方向性を決める必要があります。方向性が決まったら、どのような校舎を整備するのか議論するのが次のステップになると思います。

(委員)

意見を聞いた中では、圧倒的に分校設置案が多いため、分校設置案を中心として考えていってもいいのではないかと考えています。われわれが考えている以上に、校長先生が一番頭を悩ませて、いい結果を出さなくてはいけないというプレッシャーの中で臨まれていると思います。校長方も、分校設置案がいいのではないかとすることでしたので、分校案を主体として意見を交わした方が建設的な意見がもっと出てくると考えています。

(委員)

教育委員会の方に質問ですが、資料6で東戸塚小学校の分校のイメージ図について説明された時に、線引きはしっかり行いますというお話がありました。仮に資料6のような形で分校を設置した後に、校長が交代し、その校長が分校では運営が厳しいと思った場合、分離新設案に変更できてしまうということはあるのでしょうか。

(事務局)

仮に将来、別の校長先生が分離新設したいと考えても、新設校を設置するには条例を改正する必要がありますので、校長先生の一存だけで変えられるわけではありません。

(委員)

この検討部会のような会議を開けば、変えられる可能性もあるということでしょうか。

(事務局)

可能性はゼロではありません。ただ、過去のプロセスは重視すべきですし、本検討部会での議論を含め、こういう過程で東戸塚小学校の過大規模校対策を行ってきたことは最も重視すべき点だと思っています。

(委員)

それは理解していますが、将来的に変えることはできるのかどうかということであれば、可能であるという理解でよいでしょうか。

(事務局)

あくまでも将来、そのときの校長先生としてどうしても課題があり、地域や保護者の皆さんの御理解をいただくことを前提とするならば、可能性としてはゼロではありません。

(委員)

ありがとうございます。

(部会長)

他に何か御意見ありますでしょうか。本日いただいた御意見としては、分校設置案がとても多いと思いますが、委員の皆さんには一旦、今日の内容を持ち帰り、所属団体の中で共有・議論していただき、次の検討部会でまた意見を出していただきたいと考えていますが、よろしいですか。

<拍手>

では、意見も出尽くしましたので、次回のことにつきまして、事務局の方からよろしく願いいたします。

(事務局)

1点だけ、お伝えさせていただきます。本日、資料5「東戸塚小学校過大規模校対策：3つの方策検討の視点」を御用意させていただきました。資料の趣旨は過大規模校対策の方策をどういう観点で議論するのかの指標になるものです。本日、過大規模校対策の検討については、一度、お持ち帰りいただくこととなりますが、その際の参考にしていただき、御議論いただければと考えています。また、委員の方から施設のお話が出ていましたので、補足の説明をさせていただきます。

(事務局)

資料3の東戸塚小学校過大規模校対策検討部会ニュース第1号を御覧ください。同資料の2ページ(2)の2段落目で、「過大規模校対策の方策決定後、教育委員会事務局での建替え等の老朽化対策に向けた施設配置や工事方法、法令・敷地条件等の検討を経て、関係する地域・保護者・学校の皆様との意見交換の場を設け、御意見を踏まえながら、施設整備について検討していく予定です。」とありますが、施設整備については記載のとおりの流れになります。現在開催している過大規模校対策検討部会で方向性が決まれば、その次の段階として、施設整備意見交換会を設け、御意見を伺いながら、整備プランをお示しし、設計を進めて行くという流れになると考えております。

資 料

【資料】
・次第
・資料1 委員名簿

特 記 事 項	<ul style="list-style-type: none">・資料 2 座席表・資料 3 東戸塚小学校過大規模校対策検討部会ニュース第 1 号・資料 4 事務局に寄せられた御意見等一覧・資料 5 東戸塚小学校過大規模校対策：3つの方策検討の視点・資料 6 【参考】東戸塚小学校で想定する分校について <p>【特記事項】</p> <p>なし</p>
---------	---